



親子で  
粘土遊び  
しませんか

# やきものあそび

親御さんのみ  
参加もOK

障がいをお持ちのお子さんと保護者の方を対象にした粘土遊び教室です。

作品を作りながら、おしゃべりをしてほっこりした時間を過ごしませんか。保護者の方向士の交流や情報交換の集いの場としてどうぞ。



11/21(土)

午前 10 時～12 時

場 所：汲沢地域ケアプラザ  
地域ケアルーム

参加費：おひとり 200 円

定 員：8 名

★釉薬掛け、本焼きは当方で行います

## 参加者募集

汲沢地域ケアプラザ開催

### よこはまシニアボランティア ポイント登録研修会

ボランティア活動が気になっている方、始めてみたいと思っている方、すでに活動している方で登録を希望する方は、お気軽にお申込下さい。

#### よこはまシニアボランティアポイントとは？

横浜市民で 65 歳以上のボランティア活動を奨励する制度です。登録施設での活動でポイントがたまり年に一度換金も可能です。

日時：11月19日(木) 13:30～15:30

内容：制度の説明、ボランティアとは など  
持ち物：介護保険証コピー、筆記用具  
場所：汲沢地域ケアプラザ

お申込み締切 11/13(金)



読書の秋

## おどいば・ぐみさわ 図書めぐり スタンプラリー

本を  
借りれる場所  
いくつ知ってる？

ケアプラザ

コミュニティハウス

11月1日(日)→11月30日(月)

4つの施設の図書室・コーナーをめぐってスタンプをゲット！全部まわった方には先着ですてきなプレゼントがありますよ♪

★ スタンプラリー対象施設 ★

～だれでも本を借りることができる施設です～

- ・汲沢地域ケアプラザ
- ・踊場地区センター
- ・東汲沢小コミュニティハウス
- ・踊場公園こどもログハウス



全4施設

●お問い合わせ・お申込みは 汲沢地域ケアプラザ地域係：電話 045-861-1727

## 「地域包括支援センター」からのお知らせ



協力医

**三宅先生の  
健康講座**

## 新型コロナウイルス報道でよく聞く 「カタカナ・英語」の意味について

いまだに日々報道され続けている新型コロナウイルスのニュースでは「クラスター」や「オーバーシュート」などの言葉をよく耳にします。今まで聞いたことのないカタカナや英語に惑いを感じ、その意味が分からず不安になる方もいらっしゃるでしょう。報道におけるこれらのカタカナ英語の使用には違和感があります。今更ながらではありますが、下記の説明を読まれて新型コロナウイルス情報を把握するための参考として下さい。

### ▷クラスター(Cluster)

辞書でひくと「房・群れ・集団」とあります。よって新型コロナウイルスの報道では「**集団感染**」を意味します。クラスターの起こりやすい条件は、換気の悪い密閉空間、手の届く距離で多くの人が集まり会話や発声をする状況であり、学校・病院・飲食店・スポーツジム・カラオケルーム・ライブハウスなどが相当します。日本は新型コロナウイルス感染拡大防止の為にクラスター対策を重視しているため、これらの「**密閉**」「**密集**」「**密接**」の「**3つの密を避ける**」が叫ばれています。また、家庭内感染も規模が小さくクラスターという言葉は使われていませんが、浴室やトイレ等共有する場所が多く、食卓を囲み食事や会話をする事が多いことから感染がとても起こりやすい環境となります。



### ▷ソーシャル・ディスタンス(Social Distance)

人と人との距離を物理的に空けることでウイルス感染を防ぐ手段のことです。物理的な距離をとる意味でフィジカル・ディスタンス(Physical Distance)とも言われます。



### ▷オーバーシュート(Overshoot)

「通り越す・行き過ぎる・外す」という意味で新型コロナウイルスにおいては「**爆発的な感染者増加**」を意味しますが、本来は金融や証券の用語でもあり、様々な状況で使うので外国人にも理解できない可能性が非常に高いようです。

### ▷ロックダウン(Lock Down)

新型コロナウイルスの場合、ロックダウンは英語圏において「**都市封鎖**」を意味しますが、法律の違いにより海外で行われている様な「**都市封鎖**」は日本では行えないのが現状です。

### ▷「COVID-19」と「SARS-CoV-2」

COVID-19 とは Corona Virus Disease 2019 の略で、2019年に発生した新型コロナウイルス感染症を指します。また、ウイルス名については SARS(重症急性呼吸器症候群)を引き起こすウイルス(SARS-CoV)の姉妹種であるとして SARS-CoV-2 と名付けています。

### ▷「パンデミック」と「アウトブレイク」

ある地域において、一定の疾患患者が一定の罹患率で恒常的に発生している状況をエンデミック(Endemic)、エンデミックの範囲を超えてその地域でその疾患患者数が予想以上に増加した状況をエピソード(Epidemic)、更に国境や大陸を超えて複数の国に広がった状況をパンデミック(Pandemic)と言います。

### ▷アウトブレイク(Outbreak)

エピソードと似た意味ですが、より限定的な地域での状況に用いる様です。何れにしても範囲や規模など相対的な問題となり表現としてはっきりせず分かりにくいと思われれます。

## 三宅院長の健康相談 **無料**

日時：10月27日(火)・11月24日(火)

いずれも13時00分～13時30分

日程は変更になる場合がありますので、ご相談は事前にご連絡ください。

### ●三宅啓史医師プロフィール●

- ・1988年～1996年 聖マリアンナ医科大学 病院勤務。第一外科(消化器・乳腺外科) および同大学病院救命救急センター勤務
- ・1996年 1999年 一般総合病院内科勤務
- ・1999年から「三宅医院」へ戻る
- ・2001年 院長就任
- 消化器疾患を専門とし内科一般、外科疾患を中心に治療

汲沢地域ケアプラザ 地域包括支援センター：電話 045-861-5463



# ■ 汲沢地域ケアプラザ 10月の予定

★印のプログラムは申込みが終了しています

遊び場・しゃべり場 ほっとタイム	毎週水曜日	10:15~11:15 先着10組まで	陶芸教室★	3日(土) 10日(土)	9:30~12:00
かいごカフェ	9日(金)	13:30~15:00	ぐみざわ倶楽部★	19日(月)	13:30~15:30
やきもの遊び	お休み		ブレママブチママ集まれ	28日(水)	13:00~14:30
どれみの森のお友達★	5日(金)	10:00~12:00	ぐみカフェケアプラザ 店	お休み	

## ~介護者のつどい~ かいごカフェ



◆10月9日(金) 13:30~15:00

「作ってみよう!みんなで手作り」

◆11月13日(金) 13:30~15:00

「介護保険の活用の仕方」

お問い合わせは：地域包括支援センター  
電話 045-861-5463

## ミニギャラリー



10月1日(木) 午後~10月31日(土) 午前  
第16回「白峯展」小原 ユミ子 様

11月1日(日) 午後~11月30日(月) 午前  
写真展「心の感動」小野 清治 様

開始・終了日は、都合により変更することがありますので、ご了承ください。

## 図書コーナー



どなたでもご利用できる図書コーナーです。戸塚区図書館の本500冊、蔵書も3000冊以上あります。

開館：9時~21時(日・祝：17時まで)  
貸し出し：2週間、3冊まで  
★貸出しには登録が必要です

小さなお子さん用の  
コーナーが  
できました



みんな  
あそびにきてね。



## ボランティアさん随時受け付け中!

下記の連絡先までご連絡下さい。ご連絡お待ちしております!担当：地域係(金子、山田)

■■ ご意見・ご感想・ご質問は ■■

「ふれあい交流ぐみぐみ編集部」

電話 045-861-1727

Eメール soumu@hakuhoukai.jp

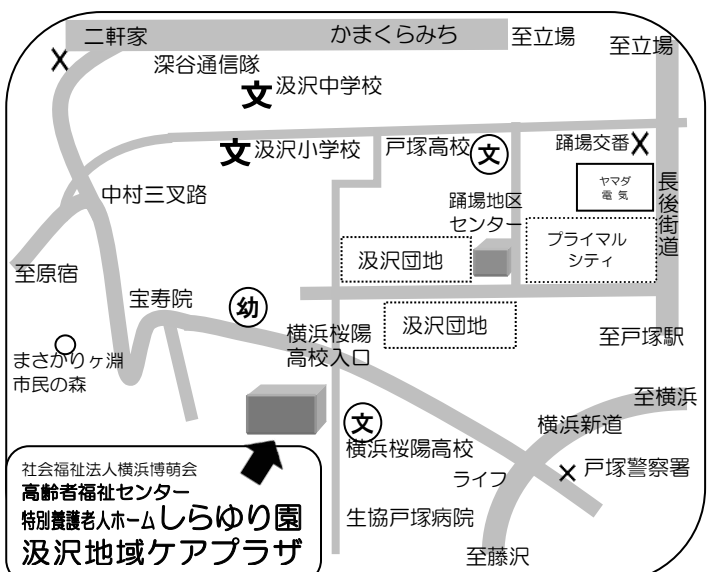
までお気軽にどうぞ

施設の詳細はホームページアドレス

<http://hakuhoukai.jp>



発行・編集：横浜博萌会 高齢者福祉センター  
協力：ボランティアグループ「ケア友の会」



●所在地・アクセス 横浜市戸塚区汲沢町 986  
JR 東海道線・横須賀線及び横浜市営地下鉄戸塚駅西口バスター④番より  
汲沢經由立場カミル行バス 横浜桜陽高校前(所要約7分)下車徒歩3分



# しらゆり園だより



## ビアガーデン開催!



8月19日にソーシャルディスタンスを保ちながらビアガーデンを行いました。職員駐車場に特設会場を作り、用意させて頂いたビールや、焼き鳥、ウィンナー、アイス等に、ご利用者の皆様はいつも以上に「美味し!」と召し上がられていました。また、今年はイベントが限られている中、今回は屋外のイベントであった為、ご利用者様、職員共に開放的で笑顔の多い夏の1日を過ごすことができました。



# デイサービスだより

## デイサービス文化祭



コロナ禍でも、楽しみを  
見つけながら、過ごしています！

## ケアマネジャーだより

🌸🌸🌸🌸🌸🌸 介護の未来はロボット頼り？ 🌸🌸🌸🌸🌸🌸

みなさんが、「ロボット」と聞いて想像するのは、どんなものでしょうか？

慢性的な人手不足に悩む介護の世界では、ロボットの導入は今後必要不可欠になると考えられます。

現在実用化されているいわゆる「介護ロボット」は

- ・移動、移乗支援ロボット（介護者が装着し負担を軽減したり、要介護者が使い移動負担を軽減する）
- ・見守り支援ロボット（単なる離床センサーではなく、全身の状態観察が可能）
- ・コミュニケーションロボット（アニマルセラピー目的の動物型、余暇活動の司会進行等）

などがあります。

こうした介護ロボットの導入により、介護現場の負担は軽減されると思われます。

しかし人が居ないわけにはいきません。介護の主体はまだまだ人にあります。

漫画やアニメに出て来るように、心が理解出来、自分の判断で動くことが出来るロボットならば、直接の介護を任せることが出来るのかもしれませんが、それはまだ遠い未来の話のようです。



きみにすべて  
たのめれば  
いいんだけど

